

# とび・土工工事業高齢者雇用推進の手引き

～生涯現役！現場の華

安心・安全な環境の下、ベテラン職人がいつまでも働けるように～

社団法人日本篤工業連合会

とび・土工工事業高齢者雇用推進委員会



## >>目次

第1章. 高齢化の進行ととび・土工工事業界

第2章. とび・土工工事業における高齢者雇用の現状と課題

第3章. とび・土工工事業界における高齢者活用に向けた具体的対応

第4章. とび・土工工事業界における高齢者の活用に向けた業界としての対応

第5章. 高齢者雇用に関する情報、相談先一覧

当手引きでは、とび・土工工事業界における高齢者活用の方策について、経験を活かし、若年者へと伝承させていくために必要な取り組みについてアンケートをもとにとりまとめたものです。また、元請業者による年齢のみを理由とした高所作業への入場制限に対して、実際の高齢者はもっと活躍できると提言しています。

## とび・土工工事業における高齢者雇用の現状と課題

アンケートの結果、60歳以上の職人のうち8割近い方が、現在働いていることに満足しています。とりわけ、「仕事の内容」については、9割を越える方が満足しております。ただし、「給与や賞与の額」や「社会的評価」については、満足しているとは言えない状況にあります。60歳以上の職人が現場で働く上で支障になっていることの中で最も多いのは、「高所作業や安全管理上の問題から元請から働かないでくれといわれる」で55.5%と半数を超えています。

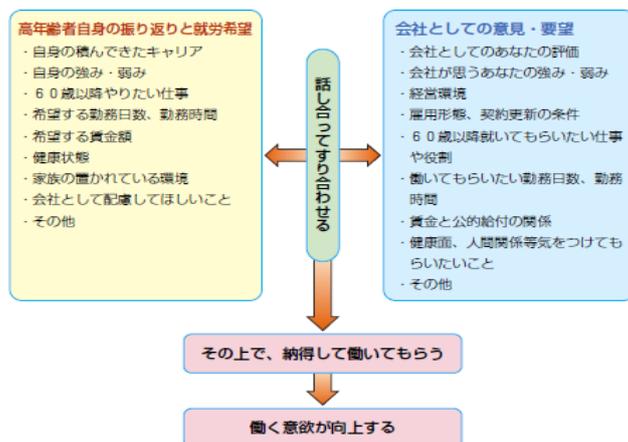
そこで、とび・土工工事業で働く職人の、できるだけ長く働きたいという希望に応え、社会的責任を果たすための取り組みとして、次の基本的な考え方が挙げられます。

1. 仕事の内容や勤務日数・勤務時間、また賃金について、高齢者本人の能力や体力、就労に関する希望に応じて見直す
2. 日々の健康管理や健康面での配慮、また、安全対策についてこれからも積極的に進めていく
3. 高齢者の保有する高い技術・技能を若年者に伝承するとともに、とび職としての心構えや仕事のやりがいについても若年者に伝えていく
4. あらかじめ60歳以降も働くことのできる能力を身に付けておくことや健康管理に関する取り組みなど、壮年期からやっておかなければならないことがあることを理解させる
5. 年齢による高所作業の制限や入場制限について、建設業界総体として改善に向けて取り組む

## 高齢者活用に向けた具体的対応

### ①高齢者の就労希望と会社としての考え・要望とのすり合わせ

60歳を迎えるに当たって、今まで就いた仕事や自分自身の強み、また、自身の健康状態や家族の置かれている環境等について振り返ってもらい、それを踏まえ、60歳以降、こういった仕事や役割、労働時間で働きたいかを考えてもらいましょう。その上で、会社として60歳以降就いてもらいたい仕事や役割、労働時間、賃金等を伝え、就労に関する高年齢者本人の希望とすり合わせるのです。こうした取り組みは、60歳以上の高齢者が働く上での納得性を高め、働く意欲を向上させることにつながるのです。ぜひとも行ってください。



## ②高齢者の仕事内容、役割

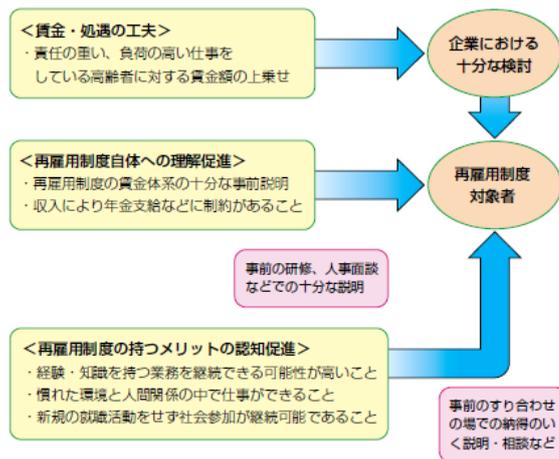
ベテラン職人には若年者への技術・技能、知恵、ノウハウ等を意識的に伝承することが求められます。ただし、保有する技術・技能は高くても「人にものを教える」ことが苦手な人も少なくありません。ベテランの職人の保有する技術・技能等を若年者に円滑に伝承するために、指導の仕方や教え方といったスキルを身に付けてもらうことが考えられます。

## ③高齢者の勤務日数や勤務時間

60歳を超えた職人の働き方は、フルタイム勤務ではありません。業務の繁閑に対応するために、短日勤務者および仕事のある時だけ働いてもらう職人を確保しておくことが考えられます。また、65歳を超えて、軽作業に就いた職人の場合は、短日勤務だけではなく、1日の仕事量に応じた短時間勤務といった形態も考えられます。勤務日数や勤務時間を減らすことは、高齢者の健康面での配慮にもつながりますので、こうした働き方に関する多様な選択肢を用意しておくことが考えられます。

## ④高齢者の賃金と働く意欲、やりがいの維持・向上

高齢者の働く意欲、やりがいを左右する大きな要素のひとつに賃金があります。60歳以上の方の場合、たとえ賃金下がっても、一定の条件を満たせば、働きながら年金が支給されたり、雇用保険から給付金も支給されることから、手取りはそれほど大きく下がらないことについてもきちんと説明しておくことが必要です。これからは、能力や仕事の内容や求められる責任、役割に見合っただけ賃金額に若干の傾斜を儲けるといったことも考えられます。



## ⑤日々の安全対策の留意点

当業界は、安全第一に仕事を行うことが絶対条件となりますので、会社全体として、また、一人ひとりの特性に応じた安全対策を講じることが欠かせません。

## ⑥日々の健康管理の留意点

加齢に伴う体力の低下、健康面の不安などが出てくることは避けられず、そうした身体への影響は個人差があります。したがって、高齢者の就労に当たっては、健康管理に

十分配慮し、健康状態の把握に努め、置かれている生活環境や生活習慣などにも左右されるので、生活習慣の改善、生活習慣病の予防にも力を入れることが重要です。

## ⑦高齢に至るまでにやっておくこと

高齢になっても働き続けるためには、従業員一人ひとりが日頃から技術・技能の向上に努めたり、資格取得に励む、また、良好な健康状態を保つことで、あらかじめ高齢になっても第一線で働き、仕事を通じて会社に貢献し続けることを可能とする能力を身に付けておくことが求められます。今後は、今まで以上に、現場や仕事の内容に応じて、責任を持って対応できる資格取得者の有無で受注が決まる可能性が高くなっていくと考えられます。現在当業界に関する資格には、技能士(1級・2級)、鳶・土工基幹技能者、玉掛け技能者、作業内容に応じた各種作業主任者等があります。

## 高齢者活用に向けた業界としての対応

元請による、いわゆる「高所作業」の年齢制限や年齢による入場制限が当業界の高齢者雇用の問題点として挙げられています。確かに、加齢に伴い、なかには体力、平衡感覚や敏捷性、瞬発力等の低下が目立つ高齢者が出てくることは事実でしょう。しかしながら、「年齢」といった画一的な要素ではなく、個々の職人の保有する「能力」という要素で、職人一人ひとりの配置場所を決めていくといった合理的な、かつ、合目的な対応をとることが、現場の安全を確保し、作業品質を上げていくためには欠かせないのです。

そのためには、各事業者が、安全対策や健康管理面の取り組みを行うことはもちろん、当業界の現場責任者と元請の管理者との間で、適材適所を前提としたメンバー選定について話し合う場を設けるなど、いまこそ、元請と当業界の双方が協力し、理解を深め、お互いに納得の出来る、質の高い仕事をしていくという姿勢が求められているのではないのでしょうか。

## Check !

当手引きでは、各項目について「経営者の声」をご紹介します。各社が実際に取り組んでいる課題、それらに対する事例を参考にしながらヒントを得ることができます。

### 経営者の声

65歳を過ぎると、体力的なこともあるので働き場など主に低い所の仕事をしてもらっています。65歳くらいまでは特に仕事を変えるようなことはしません。若手と同様、職人として第一線で働いています。  
ただし、当社の場合、とび工と土工、両方やっていますので、加齢に伴い、とび工中心から土工中心に仕事が変わるケースがあります。とびの方が土工よりも体力的にはきついので、体力的にとびが無理だと思った者が土工に移っていきます。平均年齢ではとび工が30歳代後半、土工は50歳弱になります。

### 経営者の声

60歳代のベテラン職人は、職歴の教育を受けていることから、仕事の取り方や外注の調整など、仕事全体の流れを管理する仕事が多くなっています。ただし、現場の状況によっては、元請の許可を得た上で高所での作業を行う場合もあります。

### 経営者の声

経験を積んだベテランの職人は、いわゆる勘がきます。状況のみだけでは危険か否か判断できるのです。だから、現場での指揮やアドバイスを行うといった重要な役割を果たしています。  
ただし、現場で作業着名簿を提出すると、元請などから、高齢者は名簿からはすよう指示されることが多くなっています。このような指示が出された場合は、基本的には若い職人と入れ替えますが、元請から現場に入ることが許された場合は、アドバイス、指導という観点から危険な作業が伴わない業務に就ける場合があります。